



日本遺産「海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～御食国若狭と鯖街道」
日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」

小浜西組
町並み協議会

町並み通信



発行責任者：中島 福則 2019 秋号 (vol.153)

「第34回初期消火技術大会」に参加

大原区 高鳥 直子

令和元年9月3日（火）、若狭地区防火推進協会主催の初期消火技術大会が、小浜川崎の漁港で22事業所計59チーム、延べ165人参加で行われました。私は小浜西組町並み協議会として初めて競技に出る事になりました。

競技種目は3部門あります。

①「屋内消火栓の部」（男子・女子の部）

二人一組で火災通報し、消火ボックス内のホースを延長して放水を行い、標的を落とします。

②「複合消火の部」（男子・女子・混成の部）

二人一組で人命救助を行い、煙ハウスを通過して放水を行い、標的を落とします。

③「団体バケツ消火の部」

四人一組でバケツリレーで標的を落とします。

それぞれの内容で、タイムを競います。

私は、その中の「屋内消火栓の部」（女子の部）に馬場さんと二人一組になって挑む事になりました。

いよいよ順番がまわってきました。

まず一人が119番に通報をして、もう一人が消火ボックスからホースを出し、それを二人で標的まで延長させて放水の準備までして、一人がホースを標的に向け構え、もう一人が走って戻ってバルブを開けます。ホースから放水して標的を落として、バルブを閉めて元の位置までもどったところで競技終了です。

初めての消火活動体験の感想は、消火ボックスのホースが意外に長くて重かったし、ホースから放水の瞬間手にすごい水圧を感じました。実際に使用してみて分かりました。また、屋内消火栓は消防士さんだけが使うものだと思っていましたが、いざというときは誰でも使って消火活動にあたらなれないといけない事も知りました。

この初期消火技術大会のなかで、実際に消火栓を使い消火活動を自分の身体で実践できて、



屋内消火栓の部



複合消火の部



団体バケツ消火の部

私の防災意識も高まりました。良い経験になりました。ありがとうございました。

【小浜西部町並み協議会 競技の結果】「屋内消火栓の部 女子」最優秀賞
「複合消火の部 混成」最優秀賞



西組に広がる子どもたちの笑い声

～庚申堂大祭と三丁町 de 夏まつりを開催～



地域活性化委員 松原 拓也

7月28日（日）に、「三丁町de夏まつり」を開催しました。この日は、最高気温が35度近くまで上がる真夏日でしたが、近隣の皆さんをはじめ、市内外から多くのお客様が庚申堂や三丁町を訪れ、イベント・まち歩きなどを楽しんでいただきました。

企画のきっかけは、重伝建地区選定10周年の際に、新マスタープラン策定に携わった若手有志で、「新しいマスタープランを作って満足するのではなく、できることから形にして、まちづくりにつなげていこう」と考えたことでした。

今年の4月から、“できること”第一弾として「町家de落語」（7月7日開催）の企画を考え出したところ、香取・飛鳥区から地元の庚申堂大祭に合わせて何か催しができないかという熱い気持ちを持った有志が合流し、第二弾として「三丁町de夏まつり」の構想が動き出しました。

企画にあたって掲げた目標は3つ。「庚申堂・三丁町の魅力を知ってもらおう」「子どもたちが集うまつりにする」「大人も楽しめるものにする」でした。



庚申堂

毎年7月に執り行われている庚申堂大祭に合わせて企画・開催することで、地域の人々が守り伝えてきた伝統をより多くの人に知ってほしい。未来を担う子どもたちにも伝えて、自分たちが住む地域を誇ってほしい、という思いがありました。

これまでも協議会では、諸先輩たちが中心となり、庚申堂大祭に合わせて「町家deフェスタ」という大きなイベントを開催してきました。三丁町が街路工事期間に入っているため、ここ数年は開催できていませんが、工事が完成する次年度以降へ人の流れを絶やさないためにも、規模は小さくても、いま自分たちでできることから始めようと、何度も会議を重ねて内容を練りました。

地域役員の皆さんや協議会役員の皆さんの協力を仰ぎながら、三丁町の各商店、市内各団体とも連携・協力をすることで、企画はどんどん広がっていきました。

当日は、庚申堂や三丁町に関連するクイズを解いてまわるウォークラリーが人気を集めました。庚申堂では多くの人々が名物のこんにやくを買い求め、用意された身代わり申に願いごとを書いて吊るしていました。

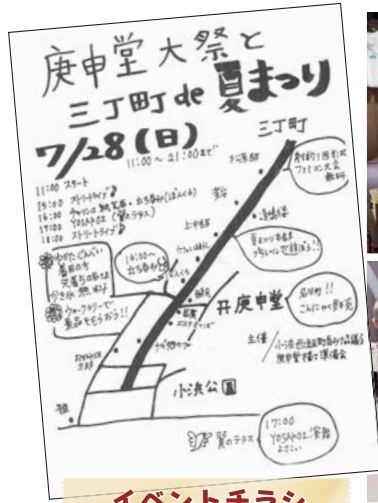
各店舗での物販や町家を会場にした射的・プラレール体験なども行われ、通りには子どもたちや家族連れの笑い声があふれました。

ストリートライブやチャリンコ紙芝居、フィナーレとなる翼のテラスでのYOSAKOI演舞

が催しに華を添え、夜に三丁町ぼんくらで行われた「立ち呑み企画」まで、にぎわいの絶えない夏の日となりました。

当日お越しいただいた皆さん、開催までに多大なるご協力をいただいた皆さんに、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。足りないところも多々あったかと思いますが、今回のイベントに携わった若手有志一同では、この経験、つながりを大切にしながら、今後も少

しずつではあります。一歩一歩、着実に新マスタープランを基にした、まちづくりを進めていきたいと思



イベントチラシ



射的・プラレール体験



身代わり申に願いごと



YOSAKOI 演舞

京都の大学生 町並み保存資料館に来られる

令和元年8月30日(金)、京都先端科学大学(今年4月京都学園大学から改名)の男女6名が町並み保存資料館に来館され、小浜のことを調査しているのので、色々お話を聞きたいと言われ急遽資料館の当番をしている杉崎さんに同席をしてもらい、2時間ほど話し合いの場を設けました。

まずはじめに町並み保存資料館の館内の説明と小浜西組が重伝建に選定されて10年が経過したことを話してから大学生の質問を受けました。

* 小浜地区(しいては小浜西組地区)に古くから伝わっている伝説や民話がありますか。

「八百比丘尼伝説やコロン橋があります」というと「八百比丘尼は別のグループが調査をしているのでコロン橋の話しをきかせてください」と言われ、杉崎さんは「八百比丘尼は私の得意分野だったのに残念です(笑)」といいながらコロン橋の話しを始めました。学生さんはコロン橋に関しては結構興味をもたれ、橋の代わりをしていた大きな石はいつごろ小浜神社の方に移されたのかなど尋ねられました。

他に次のような質問がありました。

- * 昔からの石標や道しるべはありますか。
- * 散策をされていて町名にお宮さんの名前が多かったのですが何か理由がありますか。
- * 古い町並みのわりに町(区)の会館が比較的新しいと感じたのですが。
- * 庚申堂のおさるさんが軒先に吊るしてあるのは意味がありますか。等々



他県の若い方がこのように小浜の歴史や風習に関心をもってくださることがとても嬉しいことです。

小浜西組町並み協議会からの報告とお知らせ

化粧地蔵パネル展を行いました

期間 8月9日(金)～9月2日(月)

場所 町並み保存資料館

地蔵盆の時期に合わせて小浜西組の化粧地蔵を多くの方にご覧いただこうと企画しました。

来館された方に地蔵盆をご存じかどうか尋ねたところ関西方面にお住まいの方は知っておられましたが、福井市をはじめ関東方面にお住まいの方は「地蔵盆知らないね。そのような文化はないね」という返事が多かったです。

地蔵盆を知っている方でも小浜のような派手さはなく、子ども達が夏休みの楽しみのひとつにしているような行事ではないと言っておられました。



Kさんの作品展示中

期間 11月11日(月)まで展示

(午前9時～午後5時 火曜日休館)

場所 町並み保存資料館

プロフィール

東京生まれ、小浜市在住。知的ハンデを抱えながらも、豊かな感性と抜群のセンスで、数々の作品を創作されています。色彩感覚、デザイン性、緻密性に優れ、魅力あふれる作品を日々作っています。

紙細工や小物など約90点。
ぜひ足を運んでご覧下さい。



小浜西組の URL <http://obama-nishigumi.sakura.ne.jp/>

小浜西組

検索